



会報

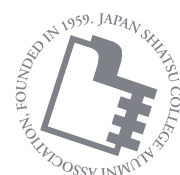
第 44 号

発行年月日 2023年 4月
発行人 会長代行 大崎 益弘
編集者 黒沢 純一
金子 智久
大久保直子
日本指圧専門学校同窓会
東京都文京区小石川 2-15-6
〒112-0002 TEL 03-3813-7354
題字 山内 貞史郎
<http://www.shiatsu-obog.com/>

ご挨拶

日本指圧専門学校同窓会 会長代行

大崎 益弘



日本指圧専門学校
同窓会のロゴマークです。
デザイン：鈴木啓太(49期)



令和を振り返るとパンデミック発生後まもなく東京オリンピックが開催されました。前例の無い条件での開催でしたが、日本らしい無観客の粛然としたスポーツの祭典となりました。選手達の素晴らしいパフォーマンスに喝采を送りながらも本来のオリンピックとは違う違和感と不完全燃焼の印象を抱いた方も多くおられたと思います。その2年後の令和4年には中東カタールでサッカーワールドカップが開催されました。東京オリンピックとは違い多くの観客の熱気が溢れかえりテレビの画面越しにも選手と観客の気持ちが沸き返る本能の雄叫びに圧倒されました。人と人が交流することは人間が生きるための本能のような物ではないでしょうか！

そんな社会情勢の中で令和4年は同窓会として3年ぶりに指圧研修会を開催するこ

とができました。現在の在校生には入学後初めての同窓会活動でした。はたして馴染のない同窓会活動に参加して頂けるのかと不安もありましたが、4回開催した指圧研修会は全て定員となり参加者の熱気と講師の方々の献身的な指導に本来の同窓会の在り方を垣間見た気がしました。指圧研修会は同窓会会則にも明記されている大事な活動です。今後も積極的に同窓生、学生が集うことのできる同窓会活動を企画してまいります。

パンデミックに追い打ちをかけるように令和4年2月にはロシアによるウクライナ侵攻が勃発しました。それにより世界の物流は乱れ天然ガス、食料等の供給が支障をきたしています。各国とも新たな調達経路の開拓や自前で生産するなどの対応に苦慮していますが、新しい秩序の中で再構築される生産体制に必要なコストこそ人や物の価値が再評価される切っ掛けとなるのではないのでしょうか。

日本政府も優秀な人材を活用するために賃金の引上げを示唆し、ユニクロ等を有す

るファーストリテイリング社は賃金の40%アップをいち早く表明しました。そうした傾向は社会全体で動き出すと止まるものはありません。それがすぐに指圧業界に反映されることはないかもしれませんが社会が大きく動き始めていることを自覚することは大切です。そうした環境や社会で必ず活躍する人や会社があられます。彼らはそうしたステージに立つ準備を着々としていた人々です。チャンスは皆平等に訪れますがそのチャンスに気づく人、気づかない人の違いは準備をしていたかどうかです。同窓会員4,000人の中にはそうした社会環境で次のステージに立つ実力を備えた方がいるのではないのでしょうか。あるいはそうした準備をして試行錯誤されている方もいるのではないのでしょうか。令和5年はそうした方々を交えた交流活動の場を提供することのできる同窓会運営を目指して頑張りたいと思います。

今後とも同窓会活動を通して皆様のご指導と支援をお願い申し上げて令和5年の同窓会会報の挨拶に代えさせていただきます。

令和4年度研修会

指圧研修会開催にあたり

日本指圧専門学校同窓会 会長代行 大崎 益弘

令和に入り最初の指圧研修会を開催することができました。

今回の研修は同窓会活動未経験の在校生に絞る講師には24期の金子武良先生、45期の宮下雅俊先生にお引き受けいただき基本指圧の重要性を研修の核としていただくことをお願いしました。皆様の協力で講師と受講生が和

気藟々と活気に満ちた研修会となりました。主催者として指圧研修会に参加して頂いた在校生、同窓生の熱意に触れることができたことを嬉しく思い、また協力いただいた皆様に感謝いたします。令和5年度も新しい研修企画を予定しておりますので皆さまのご支援を宜しくお願い申し上げます。



第1回 同窓会指圧研修会

世田谷指圧治療院のひら代々木駅前店院長

第45期 宮下 雅俊先生

『骨盤位(逆子)に対する指圧治療』と題しまして、9月11日(日)日本指圧専門学校同窓会主催の指圧研修会の講師を務めさせて頂きました。

2020年から続く新型コロナウイルスの影響により、3年越しに対面式で開催する初めての研修会の講師に推挙して頂きまして誠に光栄に思います。

伝統ある日本指圧専門学校同窓会ですから、ベテランの先生から浪越の学生さんと幅広い参加者が満足される演題を用意する必要があると思います、私が2018年度日本指圧学会誌に投稿致しました、「骨盤位(逆子)に対する指圧と胸膝位を併用した治療」という症例報告を基に講義を進行させて頂き



者さんを基に一例報告という形で執筆しました。

このようにご協力くださる患者さんばかりではないのですが、世田谷指圧治療院のひら代々木駅前店にて対応させて頂き、ここ数年で治療した逆子治療の患者さん30数例での逆子改善率は9割を超え、ご紹介でご来院された患者さんに限って言えば97%の改善率になり、再現性の高い施術の方法であると個人的には感じております。

コロナ禍ということもあり参加人数が限られた研修会でしたが、当日の参加者は、浪越卒業生5名、学生10名、同窓会運営の大崎先生、阿部先生、中盛先生、木村先生の役員4名、学校からは教員の高橋先生という構成で研修会をスタートしました。

全員、逆子治療は経験していないと

ました。執筆した症例報告は、日本指圧学会誌を読んでも頂ければお分かりになると思いますが、術前術後の超音波診断による検査結果を頂けた妊婦患者さん

・胎児の状態を考える
・圧の質を上げる押圧法の練習法
・帝王切開のメリット、デメリットは？
・何故、逆子が戻らないのか？
・施術者が体験・はじめての逆子体操・質疑応答
という2時間の講義内容でした。

また論文としては載せていない治療法のコツと、載せられないイチ指圧師としての思いや考えなどを伝えさせて頂きました。

研修会後には、「マタニティには指圧をしてはいけないと思っていたので、逆子も指圧で直せるなんて驚きました。」という学生さんや、「とても感動しました。次回の勉強会がありましたらお知らせください。」など講師冥利に尽きるお言葉も頂きました。

今回、こういう形で同窓会にレポートを書かせて頂いて気づいたのですが、

2011年2月11日に発足いたしました日本指圧学会についてのレポートがいつい無かったことに驚いております。指圧療法創始者浪越徳治郎先生の念を受け継ぎ「指圧が医学であるならば指圧の為の学会が必要である。」という前日本指圧専門学校石塚寛校長のもと、指圧の科学的根拠に基づいた医療としての立場を確立する日本指圧学会の活動も、今後同窓会にレポートを提出していきたいと思えます。

昨年12月に日本指圧学会も3年ぶりに学術大会を行いました。私は「新型コロナウイルス感染症の後遺症に対する指圧治療」と題した症例報告と実技講師を担当致しました。日本指圧専門学校同窓会、日本指圧学会の活動を通して、指圧業界を盛り上げながら、指圧を必要としている方々に指圧を届けられる普及活動を今後も続けていきたいと思えます。

第2回、3回、4回 同窓会指圧研修会



金子指圧治療院 院長

第24期 金子 武良先生

今年度の同窓会講師をさせていただき有り難うございました。多くの卒業生及び在校生の方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。今回講師をして解ったことですが、同窓会役員の方々の縁の下の力を強く感じました。この場をお借りして、役員の先生方に感謝申し上げます。指圧師同士がチカラを合わせて、これからの新しい時代に対応していければ素晴らしいと思えます。今回、3回の講師をさせていただきます。今回、3回の講師をさせていただきます。

1回目は、10月2日(日)。題目を『自然体での指圧の効果』として皆さん方と共に学びました。指圧師自身の身体にリキミやチカラが入らない指圧をすることで、患者さんがリラックス

して受けられることが超高齢化社会となる日本では必要と考えること。その為には、患者さんの身体変化等を感じ取る『感度』が大切であることを話しました。また、「何故、患者さんは指圧を受けるのだろうか?」というテーマでは、患者さんが言うことを私なりに総合すると「患者さんは、身体の痛みや不調、不安、不快を取り除く目的で指圧を受け、納得出来る説明を欲しいがっている。」と話しました。

2回目は、10月9日(日)。題目を『圧の入れ方』による効果の違い』としました。患者さんの身体を硬くする指圧をすると、指圧師自身の身体も硬直する。患者さんがリラックス状態を受けられる指圧をすると、指圧師自身

の身体も硬直しないことを、実技を通して伝えました。指圧の効果として、身体はどこを指圧しても受け手の全身に響くことを伝えました。私が以前書いた論文『うつ病に対する指圧の効果』(日本指圧専門学校同窓会ホームページ同窓会会報第34号P14からP18に掲載されています)を資料として説明しました。

3回目は、12月11日(日)。題目を『浸透圧のメカニズムと効果』としました。12月4日(日)に、私が人体科学会年次大会で発表した『新型コロナウイルス変異株のデルタ株およびオミクロンBA5に対するソフト指圧の取り組み』の内容を話しました。当治療院にいられていた元々の患者さんのうち、デルタ株では3名が感染し、感染後身体全体が冷え、特に冷えの強い部位は黒ずみの状態となりましたが、全身指圧したことで冷えの改善が見られたこと、また、オミクロンBA5では14名が感染し、感染後に頭部の一部の熱感が見られた患者さんが8名いました。全身指圧を数回行った後に頭部の熱感がなくなり、咳などの症状も消失し患者さんからは「とても身体が楽になりました」と喜ばれたこと等を説明しました。患者さんの身体に負担を掛けないソフト指圧を行いました。指圧実技供覧では、モデルの方に舌の中央と左側の2箇所前後に深い溝があることと背骨の側彎があることを見てもらった後、供覧前後の違いを参加者に確認していただきました。参加者からは「舌の溝と背骨の側彎が戻って



いる」と言う声が多く聞かれました。全体を通して患者さんをよく観察することの大切さと、患者さんに対して固定観念を持たないこと、とくに学生さんには指圧学校で学んでいることは家で例えると土台であり、とても大切であることを話しました。

私自身、人体科学会や予防鍼灸研究会で発表させていただき色々なことを学びました。指圧のどこがどの様に素晴らしいかを知りました。色々な医療関係者からの鋭い質問を受けることでの学びがありました。今回の講習会に参加していただいた方々に、私が経験したことを通して少しでもお役に立てれば幸いです。

令和4年度 研修会レポート

第64期 加藤 匠

先日9月11日、コロナ自粛で3年ぶりの開催となりました「日本指圧専門学校同窓会」主催研修会に出席させて頂きました。今回は「世田谷指圧治療院でのひら」宮下先生によるご指導を頂きました。

内容のメインは解剖学 東洋医学を用い分析研究された運動術による胸膝位「逆子」の治療についてでした。

逆子とは妊娠中胎児の頭が下向きでない状態のことで通常は分娩に近づくとも頭が下にくるそうです。week 36で逆子が治らない場合は帝王切開出産の手術内容が決まるそうです。(分娩時逆子である確率は5%前後)

研修会が始まり宮下先生が次々と繰り出す技を私たちは果然と圧倒されっぱなしで見させ

て頂きました。

宮下先生の治療院に患者さんやご家族さんはわらにもすがる思いを持ち逆子を治してほしいと不安いっぱいな状態で来られるそうです。

そこで「やさしさのあるころ 母心」を持つて患者さんやご家族さんと一緒に考え相談しながら不安感を徐々に取りながらいかに安心して頂くかを一番重要に考えるそうです。宮下先生は逆子治療は技でなく患者さんの心にやさしく寄り添うことが重要なんだともご指導頂きました。

宮下先生は治療ではなくみんなでの共同作業みたいな感じだともおっしゃっていました。

宮下先生もお師匠さんから浪越指圧を指導頂き宮下先生の娘さんの難病を治療していた時期があったと話を頂きました。お

師匠からの指導がなければ今娘さんはこの世に存在していないだろうと言う内容でもありました。

宮下先生はお師匠さんに大変感謝していました。

私は浪越指圧のすごさ、素晴らしいさを感じました。又私達は浪越指圧の歴史、伝統を重んじて今後指圧道に励まなければともおもいました。

最後になりますが今回の研修会はいかに術者と患者さんの信頼関係、心でつながることが一番重要な事を学びました。技よりもまず患者さんを思うこと。

今回研修会開催にあたりご指導頂きました宮下先生、同窓会幹事の皆様から感謝申し上げます。次第です。

また次回の研修会も心から楽しみにしています。誠にありがとうございました。

第64期 岩田 和子

令和4年10月2日、24期金子

武良先生が講師をされる研修会に参加させて頂きました。脱力は、私の課題でありました。

沢山の事を伝えて下さろうとする先生の熱を感じながら必死に耳を傾けてメモを取る。そんな時間となりました。「脱力は自分を守りそれは患者を守る事」という言葉をお聞きした時、今後忘れてはいけないと思いました。講義の合間合間に、ある患者様から先生の指圧により、家庭が明るくなったと報告を受けたお話をされていた事が心に残り、もしかするとそれは指圧師が目指すべき治療なのではないかと感じました。

研修中、私は先生の施術を受けさせて頂く事が出来ました。私が自身の不調は訴えず一切局所には触れず15分程の施術でした。施術後は長期間痛みがあった左頸部の痛みが取れた事と腰痛が取れた事に驚きました。施術中には明るい気持ちになり自然に微笑んでいました。もしかすると、これが前述の患者様の

家庭が明るくなった事に繋がる事なのかと思いました。又、私が入りから利用している睡眠アプリによると平均快眠度は54%程。当日は73%となりました。金子先生、貴重な体験やご指導を頂き本当に有り難うございました。

また、開催準備、進行に当たられた役員の先生方に感謝申し上げます。

第65期 栗崎 優

拾えるものは全て拾って帰ろうという気持ちで臨んだ研修会は、今後の指圧人生に役立てられる宝物に満ちた会だった。

四十年間。一日に十四、五人指圧を続けた金子武良先生だからこそその発言が、ずしりと重く胸に残った。特に記憶に残ったことを二点お伝えしようと思う。まずは「どんな指圧をするべきか」ということだ。目指すのは自己治療力を引き出す指圧だ。圧が強すぎれば患者さんを緊張

させ、疲れさせてしまう。いきなり百パーセント響かせようとしてはいけない。患者さんに合わせて響きを調節する必要がある。痛みや身体の不調、不安や不快を取り除く。その為には、不安にさせないように納得できる説明をする。そして、緊張を与えない指圧をすることが大切である。振動させている様に見える手は、押圧位置を微妙に変えながら、少しずつ硬結を溶かしていく。ある程度溶けた箇所にはいつまでも刺激を与えず、自己治療力が機能する余地を残して次の硬結を捉える。ご指導頂いた通りに指圧すると、全く響きが違う。自分の中で大きな目標が出来た瞬間だった。

次に「指圧時の姿勢について」だ。体重はのせず、圧だけ響かせる。身体に力を入れず、呼吸時に圧を入れ、吸気時に抜く。膝をついている側のつま先は立てる。身体は前に倒しすぎず、タイミングを見計い、僅かに臀部を上方に持ち上げ、元の

姿勢に戻る。知っている基本指圧の姿勢とは異なる姿勢だった。文章にしてみたものの、これは中々に伝わりづらいことだと思う。私自身まだよく分からないが、より真剣に指圧と向き合いたい、感覚を研ぎ澄ませ、知識と技術を吸収していこうという意欲の湧く、発見の多い会だった。

第65期 本庄 太郎

講師の金子武良先生は、来年の予約が7-8割埋まっていて、新規の予約待ちは30-40人とのことでした。

先生主催の24期C組の勉強会メンバーは全員ホームページなし、自由診療のみの消費税支払い業者とのことで、栄えている治療家になるための一端を拝見できました。

印象に残ったのは「首や大胸筋に力が入った指押しをすると指圧師は脳梗塞や心筋梗塞になる」ということです。

それを防ぐには、肘を軽く曲

げ、脇の下に、握り拳1個分程度のスペースを開けて首と大胸筋をリラックスさせて施術すること、股関節を肩幅に開き、適切なスタンスを取ることが大切で。

押すことよりも患者さんの身体の変化を観察し、説明できる力の重要性も強調されました。

先生のおっしゃる「わかりやすく話をずらした」例え話は、頓知(とんち)話のようで私の理解が追いつかない点多かつたのですが、「自分で考えない指圧師は伸びない」とのことです。一生涯懸命考えてみます。

講師の金子先生、同窓会長の栗崎先生、受付の中盛先生はじめ、今回の機会を設けていただきました皆様に心より感謝申し上げます。



開業奮闘記



しまだ指圧治療院 院長
第57期 嶋田 洋先生

「開業の経験を同窓会報の記事」と金子先生から原稿のご依頼を頂きました。私はローンも扶養家族もない、従って「最低これだけは稼がない」というノルマもない、甚だ気楽な立場の人間です。そんな人間の「なんちゃって開業記」であることを最初にお断りします。浪越入学の経緯からお話しますが、興味ない方はここで「戻る」ボタンをポチッとお願いします。

1. 浪越入学まで

大学卒業後のサラリーマン生活が三十年近くに及び、いい加減飽きてきた。明らかに誰のためにもなっていない仕事をあと六、七年繰り返して定年、他に芸もないから定年延長してリーマン続行、そんなルートが目の前にはつきり見えたらずつとした。

ささやかでも人に喜んでもらえる仕事をしたい、東洋医学や人体に対する興味、そういう事もあって日本指圧専門学校ホームページを見つけた時に



「これじゃないか」と。二〇一三年の春、五十三歳で浪越の門を敲いた。

2. 学生生活

入学直後は、自分は記憶力も体力も衰える一方だし、若い同級生に対してアドバンテージは何もない、いじめに

遭つたらどうしよう、などと弱気になったが、根がいい加減なのでそのうち緊張も忘れて楽しく過ごした。また自分の社会経験も何かの形で指圧の仕事に活かせるんじゃないか、という甘い考えも湧いてきた。

3. 卒業後

さすがに卒業して直ちに開業は無理だろう、まずは経験を積んでから、と判断して、訪問マッサージの組織に入つて研修を受け始めた。ところがちやうどその頃に独居の母親が体調を崩した。介護が中心の生活が始まりそうな雲行きになり、訪問マッサージの研修は中途半端な形で中断してしまつた。親の介護で頻繁に仕事に穴を開けるようでは、訪問マッサージの仕事は無理だろうと判断し、なし崩し的に自宅での開業に舵を切つた。

4. 自宅に施術所を開設

二〇一六年一月、市の保健所長宛に「施術所開設届」を提出。届の宛先は保健所長となっているが、実際の管



轄は区役所の食品衛生係だった(この辺は各自治体により異なると思われる)ので、書類を持つて市役所に出頭?した。

どんな指導をされるかビクビクしながら窓口に行ったが、あっさり受理のハンコを押され、現地視察もなくその場で開設許可となり、拍子抜けした。窓口が食品衛生係ということで、本来の業務である飲食店の指導で忙しいからだろうか。ラッキーだった。

5. 施術室の準備

たまたま自宅に畳八畳の部屋があったので、そのまま施術室とした。施術はマットでしている。マットは厚さ5センチくらいのタ



イ式マッサージ用のしっかりしたものをネットで見て購入。今のところベッドの必要は感じていない。

立位と座位の姿勢を確認したので、鏡と椅子を置いてある。またタオルケット、電気毛布を適宜使用。

生活臭を消すために、開業祝にもらったデフューザーでラベンダー、ベルガモットなどのアロマをその時の気分で使用している。

空気清浄機も昨年購入した。意外に電気製品が増えたため、電気コードが見苦しいのが気になっている。

6. 宣伝

開業時にビラを四百枚印刷して近隣の住宅にポスティングした。また看板を二枚自作して通行人から見える位置に掲示。「ご自由にお持ちください」ボックスを玄関扉に架けてチラシを入れている。記事は健康についての情報

を二週間くらいで更新。意外に持っているが、直接の増客にはつながっていない。

7. 周辺の環境

住居（兼治療院）は最寄駅から徒歩十五分の住宅地にある。周辺の住民は居住年数が長い八十歳以上の高齢者が多く、デイサービスなどの介護施設も町内に多く存在する。

8. デイサービスでの指圧

週に二日、近所にあるリハビリ特化型デイサービスに通って、利用者指圧をしている。浪越の先輩が偶然そのデイサービスのケアマネージャーをさされており、機能訓練指導員の空きができて紹介して頂いた。

午前と午後でそれぞれ七、八人ずつ、時間はひとり十分程度。八十代以上の方が多く、「浪越徳治郎の学校」と言えば分かって頂ける。だがそれより若いデイサービスの職員には、「指圧」という言葉は馴染みがない。時どき「母（ごころ）」のポロシャツを着て行って宣伝に努めている。

9. 地域医療と指圧師の役割

指圧の顧客はほとんどが高齢者であり、ほぼ全員が何らかの理由で通院している。通院の理由で一番多いのが膝、肩などの痛みや痺れ、そのほか糖尿痛、パーキンソン症状、脳梗塞や腫瘍摘出、骨折後の経過観察のための通院など。「お医者さんから、普段どんな事を

言われていますか」と聞いてみると、大抵「高齢だから仕方ない」「痛みと付き合っていくましよう」と言われている。自分で出来ること、日常生活で気をつけること、杖や補助具の使い方、むくみの対策などについてアドバイスを受けている人はまずいない。またそれについて不満を言う人もいない。「来なくていい」と言われないうちから通っている、何かあったら大きい病院を紹介してもらおうにも通っておけば安心、医療とはそんなもの、という感覚の方がほとんどのようだ。

通院しても良くならない医師から何も言われない、そこに不満・不安を感じる方が、物のためしに指圧を受けに来られる。だからその人の体の状態、自分で出来ることについて必ず説明し、「改善するかも」という気になってもらうことが、ニーズに応えることだと思っている。

むしろ医師ではないので、その人が受けている医療や薬を否定して脅かすような事はしないよう心がけている。

10. これから

指圧を受けに来る人は、大げさに言えば医療を含めた自分の状態に満足していない。そんな人に自分が何を提供できるか。

「指圧を受けたらよく分からないけど痛くなくなった、あの先生すごい」と言われるのがスゴいと思っていた時期もあったが、自分にそんな才能はないことも分かってきた。



その人の全体を見る、来た時よりも良い状態になって帰ってもらおう、自分の状態を知る手助けをする、自分でやることがあると感じてもらう、年齢は関係ない。一緒になって改善を目指すが、主人公はその人であって、施術者ではない。そのために勉強して腕を磨いていくのが自分にとっての指圧だと思っている。

11. 最後に

私は「按摩師」です、という人に会ったことがあります。指圧もぼーっとしていたら「マッサージ」「整体」「整骨」に呑み込まれる、今が境目だと思っています。指圧を世間に認知させるためのアクション、ささやかでも実行して行こうと思っています。

開業奮闘記

ぶたマッサージ院院長
第59期 高市 晶子先生

みなさん、指圧は好きですか？

私は大好きです。よく「なんでこの仕事をしてるの？」とお客さまに聞かれることがあります。「マッサージするのが好きなんです」と答えますが、答えになっていないかもしれません。本当にただそれだけなんです。「好き」が私の原動力です。

2011年にリラクゼーション業界に入りました。施術し始めて12年が経ちます。今まで悔しい経験もたくさんしました。悔しい経験こそが、浪越学園に入学したきっかけです。

スパー銭湯の中にあるリラクゼーションで働いてた頃、忙しい店舗だったため1日400〜500分の施術をしていました。色んなお客様がひっきりなしに来られます。施術中にお客様のため息をつかれる、舌打ちをされる、違う施術者がいいと言われる、男性施術者がいいと言われる等、挙げればきりが無いほど悔しい思いをしてきました。施術が終わった後に、なんとも言えないガツカリした顔のお客様を見る

こと程苦しいことはありません。

その当時はまだ施術歴も浅く、浪越学園に通う前だったため知識も不足していました。ヘルニアがあつて…すべり症で…と疾患を言われるたびにビクビクしていました。今思えば私もお客様に不安を与えていたんだと思います。直接手で触れるので全部伝わってしまいますよね。それで勉強しなきゃこの不安は消えないと思い、あん摩マッサージ指圧師の資格を取ろうと決めました。そして2015年浪越学園に入学しました。一生この仕事で生きていくと決めたのも、浪越学園に入学を決めた頃です。

在学中の3年間で決めていた事は基本指圧を自分のものにする事です。今まで施術してきた自分の押し方は全て忘れて、一から素直に学ぼうと決めていました。今でも学んだ基本指圧の3原則「集中・垂直圧・持続」は常に頭の中にあります。一点一点大事に無駄なく押すことを心掛けています。

また私が大事にしている施術中に心掛けていることは「お客様に安心して



開店のお祝いをたくさん頂きました。



立派な胡蝶蘭を頂きました。

いただくこと」です。マッサージ師が施術中お客様に「力を抜いてください」という言葉を発するのはよくないと思います。お客様は力を抜きたくても抜けない場合が多いです。力が入っていることを自覚されている方が少ないです。施術者側が力を抜けるような体位に誘導したり、あん摩で揺らして力みを抜いたり、お話しすることでリラククスして頂くなど、お客様が安心して受けていただけるような空間を作るように心掛けています。

あとは「笑顔でいること」。お客様からよく「高市さんはいつもニコニコしてて、悩みがなさそうでいいね?」と言われるんです。私は「先生」という感じではないので、親しみを込めてそう思われる事は嬉しいなと思います。身近な存在になりたいですし、なんでも話が出る存在になりたいです。ここに来たらなんか元気になるな、と思っただけだったら嬉しいなと思っと思っています。

お客様の身体は一人一人違って、その日の体調によっても変わります。だからこそ難しい。上手くいかないからこそこの仕事にやり甲斐を感じます。

今は不安も消えて、どんな身体だろうとワクワクしながら施術をしています。開業にあたって「好き」を詰め込みました。

まずは開業する場所。以前は恵比寿で2020年に開業しました。更新のタイミングで、今回は好きな町の台東区でお店をしたいと思い浅草を中心に、駅から近いテナントを探しました。1人で開業するので1階である必要はないと思っています。むしろプライベートル空間を売りにしたいので2階以上の静かな場所がいいと思いました。実際は理想の物件に辿り着くまでが難しく、不動産屋にいくと事務所可の物件でもマッサージはお客さまの出入りが多くなるからダメなどの理由で20件を越す物件に断られました。

やっと見つけたマッサージ可能な物件でも実際内見すると築年数がかなり古かったり、他の部屋が民泊で使われていたりと治安が悪そうでした。お客様が来たくなる場所にしないでほしいので納得いくまで探そうと決めました。その結果、自分で物件検索で探し出したのが今回のマッサージ院です。1フロア1テナントで、2階、駅から徒歩1分。即入居を決めました。

お店作りには気合いが入りました。緑がいっぱいな中で施術をしたいと思っていて、好きな観葉植物を育てて、お店に置いていきます。開店祝いで立派

な胡蝶蘭もいただきました。大事に飾っています。植物に包まれて私自身癒されています。

色々な方からアドバイスも頂きました。電話回線は引くべき、ホームページは作るべき、チラシを近所に配るべき、窓にマッサージ院を主張するポスターを貼るべき……

私は全部やりませんでした。(皆様すみません)まずは自分のお店の方性と向き合い、アドバイスは大事にいただいております。また、1対1のプライベート空間のお店にしたかったので、派手な宣伝はしたくありませんでした。電話も施術中は取れないため、お客様にストレスを与えてしまうのではと考えました。

以前の恵比寿で、お店をやっていた時に場所は非公開で宣伝はInstagramのみにしていました。その時に少ない宣伝でもお客様が来てくださる事に自信が持てた事もきっかけになっています。

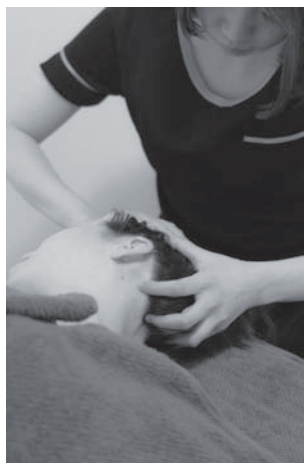
今回は場所を公開し、Google マッ

プとInstagramでの宣伝にしました。電話番号は掲載せず、自動予約サイトと公式LINEのみ。工夫した事はInstagramのストーリーーズに予約の空き情報をこまめに載せることで、予約が埋まりやすくなりました。初回割引や値引きは一切していません。そこはこだわりです。

色々試しながら、自分のお店に合った方法にたどり着くことができました。ですが、お店の名前だけは決めきれず色んな先輩方に相談しました。本当は「たかいち指圧院」にしたかったんです。指圧が好きなのでコテコテな感じにしたり、初めてくる方が入りにくいんじゃないかと思ひ、アドバイスを頂きポップさを出すために私のトレードマークでもある「ぶたマッサージ院」に決めました。一度聞いたら忘れにくいというのと、ネット検索でも出てきやすいので気に入っています。「ぶた」はトレードマークと書きましたが、



Instagramでイラストを投稿しています。



施術風景をプロの方に依頼して撮っていただきました。



サウナブランド「ぶたの湯」で販売したMOKU タオル



湯どんぶり栄湯で「ぶたの湯」の撮影をしました。サウナー以外に絶対バレないスウェットとTシャツです。



きっかけは高校時代からずっと描き続けている自作のマイキャラです。今ではすっかり私のトレードマークとして常に寄り添ってくれる存在です。このマークを見れば私を連想してもらえる様、宣伝用のポップやメニュー表、さまざまな場所に出したかった理由は銭湯が好きだからです。台東区には銭湯がたくさんあります。私はサウナも大好きでサウナブランド「ぶたの湯」を立ち上げ、スウェットやTシャツやタオルなどを販売していました。ブタのマークのタオルや、サウナ用語が入ったスウェットを作って実際に銭湯で撮影して販売しました。そのおかげで、グッズを買ってくれたお客様がまたお店に報告に来てくれたりと、沢山の出会いや人脈に繋がりました。

そんな経験の積み重ね、銭湯好きからご縁があり、台東区三ノ輪にある湯どんぶり栄湯で週2〜3回働けることになりました。

私は指圧の良さを一人でも多くの方に知ってもらえたらいいなと思っています。

ぶたマッサージ院という店名ですが、メニューは全身指圧と記載しています。よく「楽しそうに施術してるよね」と言っていたできます。そのお客様からいただいた言葉を忘れずにコツコツ頑張っていると思います。

とにかく、やりたい事は全部やってみる。頭で考えすぎず、気づいたらいつも先に行動しています。失敗してもいいんです。そこに学びがあると思っています。

とにかく、やりたい事は全部やってみる。頭で考えすぎず、気づいたらいつも先に行動しています。失敗してもいいんです。そこに学びがあると思っています。

同窓生からの便り

在学前、在学中、卒業後の事について

第54期 大橋 明

私、リラクゼーションサロンで働いた事をきっかけに、現在、あん摩マッサージ指圧師として仕事をしています。私は、もともと水泳やバレーボールをやっていた事がきっかけで、高校卒業後にスポーツインストラクターの専門学校に入学しました。インストラクターの専門学校卒業後は、トレーナーになりました。思ったのですが、まずは手技を覚える事から始めたいと思いリラクゼーションサロンに入社しました。実際やってみて、もともと技術を磨くことが好きだった自分には手技の仕事がとても合っていて、この仕事で一生やっていきたいと思うようになりました。

リラクゼーション時代、手技の楽しさを知ると共に、常に実力・知識共に不足している自分に葛藤がありました。同じ職場に、日本指圧専門学校素晴らしい卒業生がいて働いている時は常



に先輩のようになりたいと思って仕事をしておりました。その先輩から、一押しで全身に響き渡るような押し方をする先生がいると聞いて、凄く興味を湧き、いつか日本指圧専門学校に入りたいと思い、リラクゼーションで働いて6年経過後、日本指圧専門学校への入学を決意しました。心から入りたいと思った学校だった為、3年間の学校生活は本当に充実していました。週6回リラクゼーションで働きながら学校に通っていましたが、学校が楽しく3年間一日も休まず通う事ができました。3年間で得た知識・技術は大きな財産となりました。



日本指圧専門学校を卒業した後、資格の特性を最大限使用したいと思った事と、さらに技術向上を高めたく、研修鍼灸師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケアマネジャーなどの多職種が在籍しています。代表取締役の長島社長は、あん摩マッサージ指圧師として独立開業して、ここまでの事業まで拡大した凄い方でした。入社して、長島社長自ら、マンツーマンで施術研修をみっちりやって頂き、私の弱点を全て補正してくれました。そのおかげで、疾病を抱えた高齢者への施術は初めてではありませんでしたが、早い段階で対応する事ができるようになりました。入社して1年経過し、長島社



長から「マッサージ部門の管理者をやってみないか?」「とても大変な仕事で相当な覚悟が必要だけど、絶対に成長できるよ。」と声をかけて頂きました。こんな自分にそのように声をかけて頂いた事がとても嬉しく喜んで管理者を引き受けさせて頂きました。それまでの人生で管理者をした事はなく、上手くいかない事も多々ありましたが、続けている内に段々出来る事が増えるようになってきて、仕事がどんどん楽しくなってきました。現在では、施術以外に、新人研修、営業活動、新事業の考案、集団体操の仕事もしています。また、沢山の素晴らしい仲間恵まれ、あん摩マッサージ指圧師として最高に幸せな毎日を送れていると本心で思います。

今年で手技を始めて19年目になりますが、全く飽きる事なく続けられています。今、働いていて思う事は、苦しい事があっても、信念をもって諦めずにやり続ければ、道は開けてくるものだと思います。ここまで来るまでは沢山遠回りをしましたが、上手くいかなかった事も含め、今の自分の糧になっております。それでも、まだまだ実力を高めたいという気持ちもあり、まだまだ実力が足りないと感じる事もあるのですが、今後も成長できるように追求していきたいと思っております。

笑門来福

第60期 野田 千種

指圧師が必要な時はどんな時なのでしょう。私は20年以上前から、



30期の赤岡先生に学校を勧められていましたが、アロママッサージや、ハワイのオイルマッサージロミロミを現地で学びホテルの客室やスパでリラクゼーションとして、お客様の体に触れていました。

指圧に興味があったのは、テレビで映画『テルマエロマエ』を観て：施術シーンではなく、土管風呂に入る徳治郎先生似の方の『強烈な笑顔』に惹かれてしまい入学。そんな訳で、卒業後の明確なプランを立てることが難しかったのを覚えています。在学中、訪問マッサージや機能訓練指導員には全く興味が持てず、開業は恐れ多い。みかねた神様？から、3年生の秋に乳がんのプレゼント！国試前に手術入院し、卒業と同時にGW直前まで放射線治療。体は重く、自由に動けない苦しさで目に見えない放射線の威力を経験しました。一日中、横になっているしかない時に49期の中盛先生のリンパドレナージュと指圧に助けて頂きました。その後、9月の誕生日を機に生活リ

ズムを整える目的で週3日、1日6時間、2カ月間の介護の初任者研修を受けることにしました。偶然にも神奈川支部長、17期の齋藤先生の勤務先の施設が研修場でした。講師陣は現場の介護士、看護師、リハビリの先生方。介護現場の様子を詳しく教えて頂くとともに、現場での実技指導が後に大きな助けとなりました。11月、訪問マッサージに就きましたが、研修もなく初日から10名程を託され、一人で現場に直行。初任者研修で認知症の方との接し方を学んだことで慌てずすみまし

た。現在は、2021年夏に新規開設した特養で機能訓練指導員として勤務しています。思いがけず同級生の小島さんと再会し、2人で90名+10床を担当。20分程の訪問マッサージでは見えてこなかったその方の1日の生活状況を知ることができ、又、介護現場における他職種連携の環境による多角的な意見に触れ、より広い観察眼を持てるようになりました。

機能訓練指導員の仕事はリハビリのイメージが強いと思いますが、私が意識しているのは、日常生活の動作一つ一つに意味を持たせ、入居者様の身体機能が維持されるように職員にも指導していることです。例えば、車椅子は移動の道具であり、食席へ着いたら椅

子に座り替えて頂くことで、下肢筋力の低下を防ぐ。移動動作が行えれば、体幹を支えられ、立位保持が鍛えられる。トイレ利用が出来、オムツに用を足さずに、腹圧をかけて排泄が行える等。その際に必要な手すりや突っ張り棒等の環境設備の設置、車椅子の種類や足元の靴にも気を配り、提案していきます。姿勢保持の為のクッションや、床に足が届かない方には、空き箱で踏み台を用意しています。些細な事の積み重ねを大事に心がけています。

そして指圧師としての特権を最大限活用し、お体に触れながら心と体の声を聴いていく。楽しかった想い出話に花を咲かせ、記憶を呼び覚ませたら、満面の笑みと笑い声が溢れ出す。私が指圧師を続けていく為に必要な「笑顔」は、徳治郎先生の「指圧の心母ごころ押せば命の泉湧く ワッハッハ」に尽きます。人生100年時代となり、施



設で生活される方が増え、認知症の方も増え続けています。介護していく機会が増えていくということは誰しも母心を試されているのかも知れませんが、人間らしい生活が送れていますか？人間らしい機能や感情は残されていますか？私は指圧に加えてハワイが一番最初に教わったロミロミの意味「手から伝わる愛情」を心がけながら、認知症の方に良いとされるタッチセラピーのタクティールマッサージと、ユマニチュードのケアを取り入れて笑顔の扉を開いて行きます。仕事をしている時間は私も笑顔満開！そして乳がんよサヨウナラ〜♪

スペインより

ジャパンウィークエンド

(指圧普及レポート)



ヨーロッパ指圧浪越 代表

第25期 小野田 茂先生

9月24日(土曜日) 25日(日曜日)

マドリッドの郊外にあるつい最近オータンの会議を開催したイフェマという巨大な催事場において、ジャパンウィークエンドという日本の文化を伝えるお祭りが開催されました。

主な参加者は、漫画ファン(様々なコスチュームに着飾り館内を練り歩くオタクのお祭り)まさに、オタクの集まる祭典です。

毎年2日間で、約5万人の来客者と主催者側が言われるように、人人で、これは、これで実にビジネスとして成り立っているイベントのようです。

今回はこの祭典にスペイン日本人会が、盆踊りを企画して参加しました。

派手なコスチュームで盆踊りを踊られる、これはこれで様になるのです。この盆踊りのやぐらの周りにブースを用意してほしいとのことで、我々浪越指圧のメンバーが座位指圧で、花を咲かせた次第です。

オタク族に指圧はどうかナーとの疑問を残してのスタートでしたが、朝の10時から夕方5時までの時間内に10分5ユーロのご奉仕ということで、スタートしました。

2日間で、約2000人のオタク族を

施術しました。特

に若者が、躊躇なく施術を希望する様子は、指圧のヨーロッパの若者に対する普及度と需要が、比例しているように感じられて指圧という仕事の未来を感じました。

スマホやコンピュータが、ますます生活必需品として重宝がられる現代、肩凝りから首凝りに施術が徐々に重視されるようになり、後頭下筋を筆頭に、奥の骨にへばりついた硬結をどう処理するかが、施術の

良し悪しを左右するのが常識とされる現代、ますます凝りがどこにへばりつき、そしてその凝りをどう処理するか

の解明を、今の課題として勉強しています。これからの、違ったイベントに参加して指圧を広めていきたいと鼻息を荒めています。





令和6年度（2024年度） 総合型選抜（AO）入学試験日程

	エントリーシート受付期間	試験（面接）日時
第 1 次	6月1日（木）～ 6月8日（木）	6月11日（日） 午前9：30～
第 2 次	6月19日（月）～ 7月5日（水）	7月8日（土） 午後1：30～
第 3 次	7月18日（火）～ 8月1日（火）	8月4日（金） 午前9：30～
第 4 次	8月14日（月）～ 8月24日（木）	8月27日（日） 午前9：30～

令和6年度（2024年度） 入学試験日程

	受付期間	試験日時
社会人1次入学試験	9月1日（金）～ 9月12日（火）	9月15日（金） 午後6：30～
学校推薦型選抜（推薦入学試験）	10月2日（月）～ 10月12日（木）	10月15日（日） 午前9：30～
社会人2次入学試験	10月2日（月）～ 10月12日（木）	10月15日（日） 午前9：30～
一般入学試験（第1次）	11月1日（水）～ 11月9日（木）	11月12日（日） 午前9：30～
一般入学試験（第2次）	11月27日（月）～ 12月6日（水）	12月9日（土） 午後1：30～
一般入学試験（第3次）	1月9日（火）～ 1月16日（火）	1月19日（金） 午後1：30～
一般入学試験（第4次）	2月1日（木）～ 2月7日（水）	2月10日（土） 午後1：30～
一般入学試験（第5次）	2月21日（水）～ 2月29日（木）	3月3日（日） 午前9：30～
特別入学試験	3月4日（月）～ 3月7日（木）	3月10日（日） 午前9：30～

* 詳細は日本指圧専門学校事務局までお尋ねください。(TEL03-3813-7354)

第64期卒業式

日本指圧専門学校第64期卒業式が3月4日(土)東京ガーデンパレスにて午前10時から執り行われた。金子智久先生の司会で、君が代斉唱の後、卒業証書の授与に移る。昼間部本多剛先生、夜間部小俣文華先生の呼名により81名の卒業生が一人一人壇上に上り、浅谷健介校長より卒業証書と専門士の称号が授与された。

皆勤賞、功労賞、優等賞と表彰が続き、さらに部活動に活躍した学生が多数表彰を受けた。コロナ禍において3年間皆勤した13名には特に称賛の拍手を送りたい。続いて東洋療法学校協会賞がC組の山木康嗣さんに手渡され会場は拍手喝采に包まれた。浅谷校長、浪越和民理事長より指圧師としての心得、大崎益弘同窓会長代行から貴重なご自身の経験に基づくエールを頂戴した。生徒会長鎌田憲さんによる3年間の思いが詰まった答辞も印象的であった。校歌斉唱し閉式。閉式後も思い出を語り合う表情はとても晴れ晴れとしたものであった。



3年間を振り返って

A組 篠原 正明



私達64期は、今までの期と比べても特別な期だったと思います。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言で入学式が延期になり、2ヶ月間の自宅学習を経て6月スタートという波乱の幕開けでした。学校生活でも不要な会話の自粛・距離・マスク着用などクラスメイトとのコミュニケーションも取れなくて、顔や名前を覚えるのにも苦労しました。学園祭・イベント・部活動の中止や延期などもありました。

そんなコロナ禍でしたが、学校の授業や仲間と過ごした時間はとても楽しかったです。実技では基本指圧や応用指圧を学び技術が上達するのがとても嬉しかったです。ペアで組んでの全身指圧の授業が心も身体も癒されるので一番好きでした。また解剖学・生理学・病理学・東洋医学など難しかったけど知識が身につきました。医療系のドラマを見ていて専門用語が普通に分かった時は驚きでした。

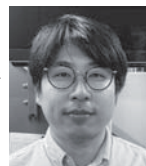
他にも解剖見学実習や外部の方を受け入れるの臨床実習、新校舎と本校舎の移動やエレベーターの大渋滞など大変なことも多かったですが良い思い出です。

この浪越学園で学んだ技術や知識を活かして、一人でも多くの人を幸せに出来る指圧師になれるように精進して行きます。

最後に、3年間無事に通うことが出来たのも、楽しく頼りになるクラスメイトや、親身に接してくれた先生方や、支えてくれた家族のおかげです。心より感謝申し上げます。ありがとうございます！

衝撃の三年間を終えて

B組 鶴飼 昭伍



三年間の学生生活が終わった。64期はなんともいってもコロナの影響による異例の期だったと思います。4月から緊急事態宣言で入学式は中止、明けるまで自宅待機、見たこともない医療科目の自宅学習に焦り、実技は教科書を見ながら自己指圧、正直不安しかありませんでした。

ようやく六月に目処がついて登校による授業が開始されましたが、感染を恐れながらの登校、学校のイベントも相次ぐ中止、親睦会なんてもってのほかで、今までの当たり前の日常を強制的に変えなければならぬ、学校も生徒も刻一刻と変わる世界の異変に対応しなきゃいけない事態にとっても大変だったと思います。

人生数十年の中の一つの三年間、長いようで短く、濃いようで薄い。丁度コロナに当たったこの三年間、今後も新たな感染症が起こる可能性はあるが、今後あの時はあーだった、こーだったなんて話になり、その度に一緒に苦しみ、笑い合った友や学校のことを思い出さずしてしょう。これからは感染症なんて流行らない方が良いに決まっていますが、この三年間がそれほど衝撃的になってしまったのは言うまでもないでしょう。

これからは一指圧師として社会に出て行きます。コロナが流行り始めた頃、施術所も患者さんが減り、福祉施設も閉鎖され、訪問先も断られてしまいい仕事が減ってしまったと聞きました。でもここから一年、二年経った頃からまた需要が上がってきているみたいで(まだ一〇〇%戻ったわけではないですが)、嬉しい話です。それに患者さん利用者さんはこれからもっと増えていくと予想されています。せっかくなので指圧師になったのだから、たくさんの人を圧して「動くようになった」「気持ちよくなった」なんて笑顔を増やしていきたいものです。

浪越学園の基本指圧

C組 嵯峨 千枝



浪越学園の思い出は挙げれば切りがありませんが、あえてひとつ、と言え

最初の頃は決まった圧点を圧すのみで戸惑いの連続でした。しかし、二年になると基本指圧にも慣れて来て、応用も始まり実技授業が楽しくてしかたなかったのを覚えています。

そんな折、二年の終わり頃でしょうか、授業で先生方の基本指圧の姿勢を拝見していた時に、どの先生の姿勢もとても美しいと気づいたのです。身体の動きに無駄がなく、重心が無理なくきちんと患部に乗っているのが分かりました。それはとてもシンプルな姿勢でした。伝統的な形式美と言っても過言ではないと思います。

そしてもう一つ、受け手に対しての礼儀、謙虚さを感じました。学生に対して教えるお立場の先生から礼儀や謙虚さを感じ取れた事は、浪越で得られた数々の教えの中でも最高の学びであったと思います。

「形式」と「心」は対極にあるような言葉ですが、意味のある形式はその根底に必ず「心」があります。その事を学べた三年間は、長い人生の中でもとても濃く意義深い三年間でした。

最後になりましたが、辛抱強くご指導下さった諸先生方、本当にありがとうございます。これからも引き続きご指導、ご鞭撻をお願い致します。これからの浪越学園のご発展を心よりお祈りしております。

校舎改築とこれからの学校



学校法人浪越学園 日本指圧専門学校 校長

浅谷 健介

1946年5月、我々の学び舎は文京区の傳通院前にて誕生する。当時は入浴施設があり今で言うスパの先駆けであったと思われる。また、学生は共に生活し、衣食住のなかで各々が目標をもって成長していったのであろう。そして、学校も時代の流れや変化と共に現在の日本指圧専門学校が醸成されたのである。私は、ここ10年程度の浪越学園しか知らないが、半世紀以上に渡り普遍的な伝統は、「学生や同窓の指圧に対する真摯さ」であると言える。我々教職員はこの真摯さに向き合い、それに応える責任がある。

話題を校舎について戻す。今から約2年前より本校舎の全面改築計画が持ち上がる。改築の目的として、大きな要因は50年以上経過した本校舎の老朽化、2つの校舎を運用し続ける事による経費の増大などが挙げられる。この

記事を読まれるのは同窓であると考えられるので、建築に関わった裏事情を一部お話しする。当初、解体、建設の見積もりを取ったのは2年前であり、理事会の承認、厚生労働省の許可を得るため6か月後が本契約となった。この6か月のタイムラグにより、円安や建築資材の高騰から見積金額の約2割増となってしまうたのである。問題はそれだけではなかった。古い建築物のため、アスベストが使われていることは覚悟していたが、解体を進める中で、図面や我々の記憶にもない地下ピットが発見されたり、5階4階天井の強度不足により重機を屋上に載せることができない事も解体に時間を要した原因であった。これら工期の遅れは、資金調達などにも影響してくるのである。

もう一つ、学校にとって大切なものがあつた。近隣の保育園や幼稚園の子供



一時飼育中の鯉

たちの散歩コースでもある鯉の棲む池である。「押せば命の泉湧く」の泉が残さなくてはならない。鯉ヘルペスの問題から、一時的に飼育してくれる業者が見つからない。悩んだ末に私の狭い家で預かることにしたのである。濾過装置などは設置しなかったため、夏場は2日に一度水を入れ替えなくてはならず、夜中にやたらと鯉がバシャバシャと音を立てているため、外を見ると野生化したアライグマが鯉を物色する日もあつた。この原稿を書いているのが雪の降る2月10日である。あと一か月、無事であつて欲しい。

これからの学校について。あん摩マッサージ指圧、とりわけ指圧は医療の概念を越えた存在であると私は思う。指圧は我が国の伝統であり文化的な要素が多く盛り込まれている。文化とはその土地に根ざした日常や習慣であり、そこには優劣も上下もない。新しい校

舎は多く和の要素が盛り込まれており、治療センターについても附属臨床実習施設としての役割を強化することで、地域に開かれた学校を運営していく。100年後、1000年後も命の泉を絶やしてはいけないと考える。



新校舎竣工

寄付金賛助者ご芳名

令和四年度 二四五件

六七八、〇〇〇円

御芳名掲載をもって御

礼と領収の証とさせていただきます。○数字卒業

期(敬称略、順)

御芳名掲載をもって御

☆三万一千円

④5 宮下雅俊

☆二万四千元

⑤0 岩本健一

☆一万八千元

②7 川原善次郎 ③4 渡辺豊

☆一万元

①1 佐藤脩 ①8 広本義人 ②5 福

島静江 ③1 島崎広彦 ③4 丸井

秀人 ④0 三田利幸 ④2 馬場雄

一 ⑤3 浅谷健介 ⑤9 西岡善史

☆八千元

①9 村松元三 ②1 西田恒治 ②8

畑中(川原)糸美 ②9 鳥山久

子 ③7 石塚怜子 ④1 佐々治六

郎 ④8 椎名賢太郎 ④9 田中功

⑤0 田中慶篤 ⑤1 今井(黒田)

智枝

☆七千元

⑤6 河北剛

☆六千元

②4 伊藤次雄

☆五千元

②0 海上富雄 ②5 鶴見せつ子

④0 小谷田作夫 ⑤3 河内誠二

⑤8 安保勝 ⑤9 田口文隆 ⑥1 鈴

木健介

☆四千元

⑤0 大崎益弘 ⑤6 八本竜司 ⑤6

笠井謙次 ⑤6 村山寛弥

☆三千元

④4 村越(井上)てい子 ⑧ 藤

井正弘 ①4 三浦るり子 ①6 濱

田洋 ①6 入山君子 ①7 戸来み

や子 ①8 井芹幸夫 ①8 原忠雄

①8 梅沢宗仙 ①9 飯島幸雄 ①9

高橋葉子 ②0 海上富雄 ②1 相

野谷真 ②1 服部(町田)青香

②2 橋本二郎 ②3 馬場正義 ②4

藤森増雄 ②4 向井豪 ②4 上野

末次 ②6 佐藤優 ②7 柴田俊久

②7 田中克幸 ②7 浪越雄二 ②9

関根康博 ②9 小林隆 ③0 山下

泰治 ③2 石井ヒサエ ③5 岡本

一宏 ③5 中山節 ③5 木暮晴雄

③5 大久保昭男 ③6 粟村輝子

③7 平野広樹 ③8 柳生田忠志

③9 佐藤清子 ③9 柴田ひろみ

③9 横川純夫 ④0 吉田憲生 ④1

柳生田忠生 ④3 森近大輔 ④4

齋藤浩 ④4 長島明 ④4 小松和

幸 ④5 北條崇成 ④7 當麻康江

④8 初澤浩一 ⑤1 岡本京子 ⑤2

鷹股慎吾 ⑤2 宮下麗子 ⑤3 神

田裕幸 ⑤3 石田浩 ⑤4 黒田尚

美 ⑤4 高野良治 ⑤5 宮下英敏

⑤6 姫路雄紀 ⑤7 加藤孝太 ⑤8

福田慎一郎 ⑥0 中川健一 ⑥2

清水俊一 ⑥3 伊藤麻里 ⑥3 清

家美奈子 ⑥3 櫻井信二

☆二千元

①5 佐藤肇 ①8 深澤克磨 ②0 川

口義宏 ②2 山崎蒼 ②2 高木二

朗太 ②6 本間裕 ②7 加藤一 ②7

倉地徳成 ③1 松井登久子 ③7

末永洋子 ③8 狩野かよ子 ④3

石井啓 ④4 小野朋子 ④5 小林

章一 ④5 山崎陟 ④6 岡野昭 ④6

川寛健嗣 ⑤6 角本靖司 ⑥2 中

村裕美子 ⑥2 市川奈々瀬

☆千元

⑥ 海津新之助 ①1 眞間時男

①2 岩切秀樹 ①3 鳥実専二 ①4

高柳茂男 ①7 平井伸穂 ①7 平

井(市川)浩子 ①7 糸井正子

①7 萩原嘉寿代 ①8 片山晶子

①8 堀江秀樹 ①9 新村忠志 ①9

天海誠 ①9 佐藤玄祥 ①9 千葉

主 ①9 麻生島勇 ②0 渡部武利

②0 下田(石川)文子 ②1 渡辺

正雄 ②3 森岡忠司 ②3 高橋耕

作 ②4 岡本草苑子 ②4 胡桃愛

子 ②4 田川博 ②4 中村(岡崎)

陽子 ②5 北村雅彦 ②5 関伊智

朗 ②5 工藤文宏 ②5 糸井主好

②6 笠原正親 ②6 杉山保雄 ②6

青山晴基 ②6 小山内(河辺)

多美江 ②6 野口(清水)雅子

②7 内山直行 ②9 西川保洋 ③0

赤岡充雄 ③0 北原一秀 ③0 福

安志泰 ③2 小野紘緑 ③3 梅枝

(森藤)千代子 ③4 大城裕子

③4 西海泰子 ③7 遠藤久孝 ③8

小林信行 ③8 荒木麻那美 ③8

木村龍一郎 ③9 湯口信雄 ③9

斉坂京子 ④0 田沢佳世子 ④1

土井(北川)百合 ④2 相澤寛

和 ④2 本間博 ④3 上田康弘 ④3

中田健二 ④3 相澤文隆 ④3 中

野俊夫 ④4 佐久間崇 ④4 新田

淑子 ④4 入江徹 ④4 若林守 ④4

大野まゆみ ④5 鈴木喜美子

④5 前田孝男 ④6 長谷川園子

④6 高野哲彦 ④6 重森祐二 ④7

谷内克大 ④7 稲生妙子 ④8 後

藤政敏 ④8 水野(佐藤)恵里

④8 星野智 ④9 大島和夫 ④9 高

木諭 ④9 角伸浩 ④9 中盛祐貴

子 ⑤0 竹内高雄 ⑤0 込山哲郎

⑤0 瀧本光代 ⑤0 菊崎カデナ

⑤0 藤本かおる ⑤0 黒沢武志

⑤1 大岩治男 ⑤1 松村哲也 ⑤2

永井努 ⑤2 立部正則 ⑤3 寺内

由香 ⑤3 丸山一郎 ⑤4 加藤恵

美子 ⑤4 熊田(永瀬)友香子

⑤4 濱田大輔 ⑤5 土屋貴洋 ⑤5

伊藤勝基 ⑤5 新井乃婦代 ⑤5

竹内隆子 ⑤6 関根由記子 ⑤6

大平和雄 ⑤6 嘉手苺悟 ⑤6 平

田玲子 ⑤7 石黒一美 ⑤7 遠藤

登 ⑤7 喜多野智之 ⑤8 吉富和

徳 ⑤8 徳道敏子 ⑤8 前田孝政

⑤8 佐藤保 ⑤8 中村愛 ⑤9 原田

芳一 ⑤9 岡庭幸正 ⑤9 武藤仁

史 ⑤9 高附茂子 ⑥0 砂山典子

⑥1 町田和行 ⑥1 中村三千代

⑥1 福田隆雄 ⑥1 森岡健 ⑥2 瀧

澤哲 ⑥2 山中秀樹 ⑥3 小川恵

⑥3 陣内啓子 ⑥3 草木昌一 ⑥3

菱田基 ⑥3 谷川直 ⑥3 笹森大

輝 ⑥3 青柳恵里奈 ⑥3 玉木理

志 ⑥3 尾上雅之

予算・決算・収支報告書

予算案

 自 令和5年4月1日
 至 令和6年3月31日

収 入 の 部			
	令和4年度予算	令和4年度決算	令和5年度予算
前年度より繰越	7,516,205	7,516,205	8,454,461
入 会 金	1,050,000	1,155,000	1,050,000
運 営 費	800,000	768,000	750,000
総 会 収 入	0	0	500,000
預 金 利 息	50	89	40
そ の 他 収 入	0	16,860	0
寄 付 金	700,000	678,000	650,000
講 習 会 費	0	0	0
収 入 合 計	10,066,255	10,134,154	11,404,501
支 出 の 部			
	令和4年度予算	令和4年度決算	令和5年度予算
総 会 費	0	0	1,500,000
講 習 会 費	500,000	355,017	600,000
会 報 発 行 費	1,200,000	1,037,862	1,200,000
通 信 費	300,000	83,294	300,000
印 刷 費	30,000	0	30,000
渉 外 費	50,000	12,000	50,000
交 通 費	100,000	60,400	100,000
慶 弔 費	30,000	10,000	30,000
事 務 用 品 費	30,000	1,430	30,000
雑 費	30,000	24,320	30,000
情 報 管 理 費	200,000	67,712	200,000
役 員 会 議 費	20,000	1,606	20,000
設 備 使 用 料	36,000	36,000	36,000
予 備 費	100,000	0	100,000
新 規 事 業 費	1,500,000	0	800,000
事 務 活 動 費	30,000	0	30,000
支 出 合 計	4,156,000	1,689,641	5,056,000
次 年 度 繰 越	5,910,255	8,444,513	6,348,501

令和5年3月31日

日本指圧専門学校同窓会

会 長 岩 本 健 一 印
 会長代行 大 崎 益 弘 印
 会 計 高 橋 雄 輔 印
 青 木 美 稚 子 印
 監 査 渡 邊 和 雄 印
 角 本 靖 司 印

貸借対照表

令和5年3月31日現在

資 産 の 部		負債及び正味資産の部	
現 金	48,399		
三菱東京UFJ普通口	5,310,691	(正味資産の部)	
ゆうちょ銀行	3,085,423	余 剰 金	8,444,513
合 計	8,444,513	合 計	8,444,513

収支報告書

 自 令和4年4月1日
 至 令和5年3月31日

収 入 の 部			
	令和4年予算	令和4年決算	内 訳
入 会 金	1,050,000	1,155,000	77名分
運 営 費	800,000	768,000	384名分
総 会 収 入	0	0	
預 金 利 息	50	89	ゆうちょ銀行 三菱東京UFJ銀行 利子
寄 付 金	700,000	678,000	245名分
講 習 会 費	0	0	
そ の 他 収 入	0	16,860	東京海上日動 払戻金
当 期 収 入 合 計	2,550,050	2,617,949	A
前 期 繰 越 収 支 差 額	7,516,205	7,516,205	B
収 入 合 計	10,066,255	10,134,154	A + B
支 出 の 部			
	令和4年決算	令和4年決算	内 訳
総 会 費	0	0	
講 習 会 費	500,000	355,017	オンライン研修講師謝金 スタッフ交通費
会 報 発 行 費	1,200,000	1,037,862	会報第43号 旭出版
通 信 費	300,000	83,294	郵便別納料金、振込手数料
印 刷 費	30,000	0	
渉 外 費	50,000	12,000	指圧協会新年会会費
交 通 費	100,000	60,400	役員交通費
慶 弔 費	30,000	10,000	64期卒業祝い金
事 務 用 品 費	30,000	1,430	文房具、領収書等
雑 費	30,000	24,320	両替手数料、岩本会長退任記念品
情 報 管 理 費	200,000	67,712	名簿データCD作成、ホームページサーバーレンタル料
役 員 会 議 費	20,000	1,606	役員会議飲料
設 備 使 用 料	36,000	36,000	母校へコピー機、電話等施設利用料として
予 備 費	100,000	0	
新 規 事 業 費	1,500,000	0	
事 務 活 動 費	30,000	0	
当 期 支 出 合 計	4,156,000	1,689,641	C
当 期 収 支 差 額	(1,605,950)	928,308	A - C
次 年 度 繰 越	5,910,255	8,444,513	A + B - C

2023（令和5）年度 通常総会・懇親会

日時：令和5年6月11日（日）11時

【通常総会】

会場：日本指圧専門学校
 住所：東京都文京区小石川2-15-6
 内容：総会（11：00～11：50）
 活動報告、会計報告、監査報告、予算案
 ・記念講演（12：00～12：30）
 「父 浪越徳治郎を語る」
 講師 日本指圧専門学校 理事長 浪越和民

【懇親会】

会場：ホテル機山館
 住所：東京都文京区本郷4-37-20
 TEL:03-3812-1211（右記地図参照）
 アクセス：地下鉄本郷三丁目駅より徒歩2分
 （1, 2番出口または3番出口）
 時間：14：00～16：00

会費：卒業生 6,000円 在校生 無料
 申込：会報誌に同封されておりますハガキにて
 出欠をお知らせください。



本郷三丁目駅からの地図（HPより）

＜運営費納入のお願い＞

毎年のお願いでございますが、運営費のご協力をお願い申し上げます。運営費は会員間の親睦を図るため会報の発行、名簿の整理、研修会の実施などに使用されております。同封の払込用紙をご参照の上、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

＜総会会費について＞

令和5年6月11日に同窓会総会、懇親会を行います。懇親会へ参加ご希望の方は、同封の払込用紙をご参照の上、6,000円のお振込みをお願いいたします。

編集後記

新緑が芽吹き、太陽の光を全身に浴びて風薫る気持ち良い季節を迎えました。
 同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。今号も、同窓会会報誌第44号をお読みいただきまして、ありがとうございます。
 しかし、数年来に及ぶコロナ禍には本当に悩まされますね。同窓生の皆様も、手洗い、うがい、消毒、換気をはじめ、感染対策に苦慮されているのではないかと思います。こんな時こそ、我々のもつ指圧という技術による免疫力強化が必要なのではないでしょうか！
 4月には新校舎が完成し、学生、教職員共にフレッシュな気持ちと雰囲気包まれながら学園生活を送らせて頂いております。
 今号では数年ぶりに開催できた対面による研修会の講師の先生による寄稿、参加者の感想、また、同窓生の開業奮闘記、同窓生からのたより等に大きく文面をさきました。同窓生の皆様に楽しくお読み頂き、また、今後の指針にして頂けたらと思います。
 また、新校舎も完成し充実した教育環境を有する本学園にご入学をご希望される方がおられましたら是非ご紹介ください。素敵なスタッフと環境がお待ちしております。
 最後になりますが、いつまでも変わらない「指圧道」への思いを胸に刻み、人々の健康と幸せを実現させ、平和な世界実現に寄与し頑張ってください。同窓会は同窓生を繋ぐ礎です。これからも皆で力を合わせて「指圧」を盛り上げるべく頑張りましょう！
 （金子智久）